

おはようございます。

一昨年、修学旅行の引率で京都を訪れた際、青蓮院という寺院の石碑に、こんな歌が刻まれていました。

『明日ありと 思ふ心の あだ桜  
夜半に嵐の 吹かぬものかは』

親鸞が、幼くして両親を失い、青蓮院に身を寄せたその晩、僧侶になるための儀式である得度（とくど）を翌日に延ばそうと勧められた際に詠んだと伝えられています。『あだ桜』とは、はかなく散りやすい桜のことです。



明日があると思っていなくても、夜に嵐が吹けば桜は散ってしまうかもしれない。だから、先延ばしせず、今やるべきことはすぐやりましょう。—— そんな強い決意が込められた一首です。親鸞は、のちに浄土真宗の開祖とされる人物です。

日本の春といえば、やはり桜でしょうか。昔の人も、このように桜の咲く姿や散る姿に心を動かされてきました。ところが、桜の開花は年々早まっており、今年は入学式のあった4月8日には、すでに満開を迎えていました。

ChatGPTに調べてもらったところ、山形市の桜の開花日は、このおよそ50年の間に10日ほど早くなっているということです。私たちが毎年当たり前のように見ている桜も、実は気候変動を映し出しています。

しかし考えてみれば、桜が早く咲くようになったと感じるのは、私のように長く生きてきた者だからこそかもしれません。16、17回しか桜を見ていない皆さんにとっては、その変化はなかなか実感しにくいことでしょう。

一年ごとの違いはわずかでも、それが積み重なれば、やがて見過ごせない変化になります。長い時間の中で振り返ったとき、私たちははじめて、その変化の大きさに気づくわけです。

今年、本校は創立100周年を迎えました。入学式の式辞で、『伝統とは、形を一つも変えずに守ることではありません。大切な精神を受け継ぎながら、時代の変化に応じて新たな形を生み出していくことです。そして、真に受け継がれているものの中にこそ、新しさが宿るのです。』と述べました。

新しさの一つとして、今年は制服も一新しました。ぜひ1年生は、美しく、誇りをもって着こなしてください。2、3年生の皆さんには、これまでの制服を大切にしながら、先輩としてよき手本となってほしいと思います。新しい制服と従来の制服とが並ぶ姿も、今年・来年の風景です。

さて、本日はこのあと、生徒会長のあいさつとクラス委員の任命式があります。今年の生徒会のスローガンは、昇降口にも掲げられているとおり『音色』です。私は、この『音色』という言葉に、とても深い意味を感じます。音色とは、たくさんの音が重なり合って生まれるものです。

学校もまた、一人ひとりの違いが重なり合っていてできています。だからこそ、皆が同じであることよりも、それぞれの違いが響き合う学校であってほしいと願っています。今年、100周年を迎える生徒会として、次の100年につながる新しい音色を、皆さん自身の手で生み出してほしいと思います。

結びになりますが、1,059名という県内一の生徒会がスタートしました。あいさつと笑顔のあふれる楽しい学校にしていきたいと思います。